

◆主題名

国際社会の一員

内容項目	C-(18) 国際理解・国際貢献	教材名・出典	海と空—檜野の人々—
本時のねらい	トルコ人も日本人も同じ一人の人間であり、国同士で助け合っていく必要があることを学ぶ		
生徒の実態を把握するために必要なアンケートの内容			

Link

<p>中心となる発問を主題とつなげるために、どんな発問をしておけばよいだろうか。</p> <p>①トルコ政府はなぜ、日本のために救援機を出したのだろうか。</p> <p>②檜野の人々はなぜエルトゥール号の乗組員を救助したのだろうか。</p>
--

◆テーマ

(中心となる発問)

トルコと日本人の人々を動かしたものは何だろう

ねらいとする価値に迫るために

なぜ学び合う活動をさせるのか、その意図を明確に。

◆学び合う活動のねらい

変容をねらう 多様性に気付かせる 自分の考えを深めたり広げたりする

その他()

学び合う活動のねらいを達成するための手立て

1 心情円盤 2 ネームプレート 3 付箋紙 4 心のものさし 5 ICT 6 その他

学び合う活動のスタイル

1 フリー() 2 ペア 3 グループ 4 その他

◆最後の振り返り

この時間を通しての「本音」が聞けるように！

【授業後の反省】

導入でゆるキャラを用いたことにより、トルコと檜野のつながりについて子どもたちが関心を持つことができたと思う。また、一つ目の発問の前の状況説明をある程度詳しく行ったため、子どもたちがしっかり発問について考えることができたと思う。

二つ目の発問についての子どもたちの考えを問い返しながら深めていく際に、「トルコ人とか日本人とか関係なく、困っている人が目の前にいたら助けたいと思ったから」という発言が出てきたので、国際社会に生きる者としての自覚を少なからず持つことができたと思う。

全体的に、少し誘導的になってしまっていたと感じた。細かく説明しすぎずに、ざっくりと聞いて生徒同士の交流から答えを深められたら良かったと思う。